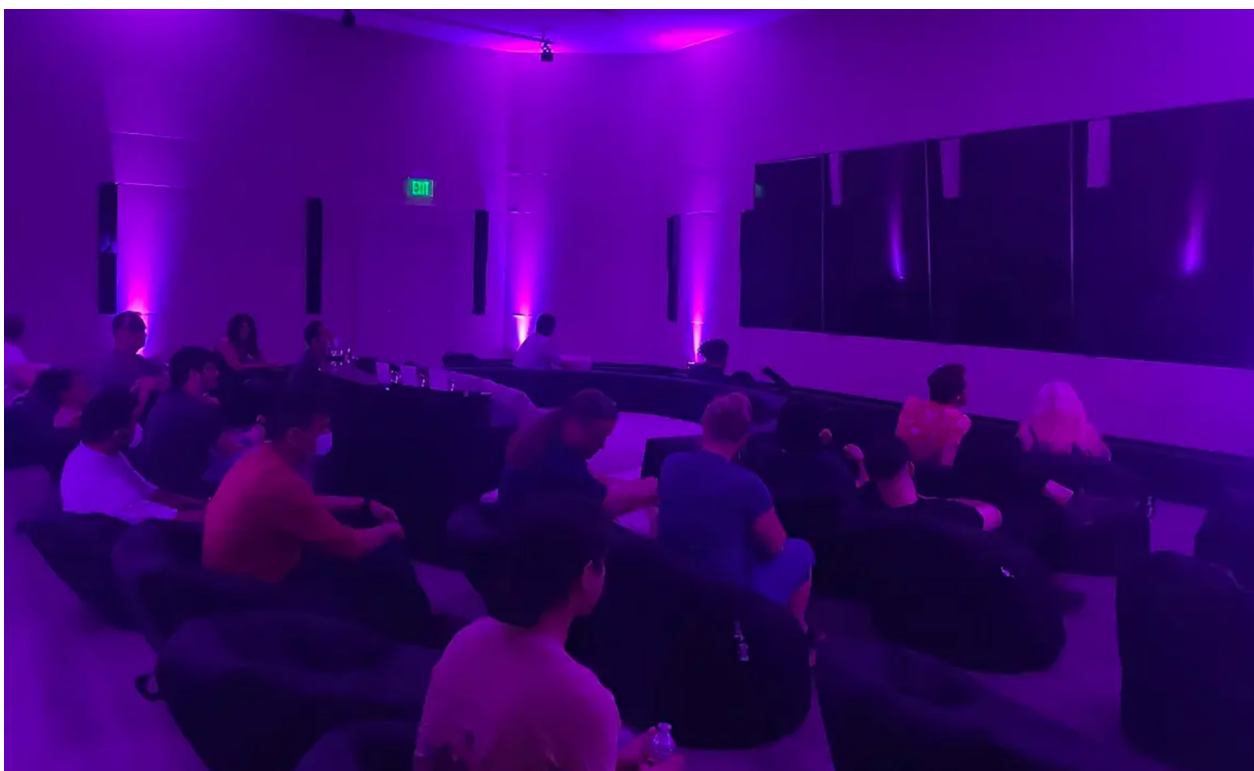




リスニングアートを再認識する。
ポーキュパイン・ツリーのアルバム『CLOSURE/CONTINUATION』が
L-Acoustics Creationsの国際的なリスニングイベントで特集される



「L-Acoustics Creationsの空間は、意図されたとおりの音楽体験を提供してくれます。」と、Porcupine Treeの創設者でソロアーティスト、そして著名なミックスエンジニアであるスティーヴン・ウィルソンは語ります。



2022年9月6日

オーディオのパイオニアであるL-Acousticsの一部門、「L-Acoustics Creations」は、2020年初頭にスタートして以来、ロンドンとロサンゼルスにあるイマーシブサウンドスペースで数十のイマーシブ・リスニング・イベントを開催しています。これらのセッションでは、音楽業界のプロフェッショナルやファンなど少人数のグループに、最新の18.1.12オーディオシステムで、好きなアーティストの音楽を意図したとおりに聴くという至高の機会を提供します。8月、L-Acoustics CreationsはPitchblack Playbackと提携し、ポーキュパイン・ツリーのニューアルバム『CLOSURE/CONTINUATION』のためのセッションをロンドンとLAで開催しました。

ポーキュパイン・ツリーの創設者スティーヴン・ウィルソンは、ロンドンのハイゲートにあるL-Acousticsのリスニングスペースを実際に体験し、新しいアルバム『CLOSURE / CONTINUATION』の没入型リスニングイベントを企画することを熱望していました。「このアルバムは、最初

から最後まで、音楽の連続体として聴くように設計されています。」とウィルソンは説明します。L-AcousticsとPitchblack Playbackのリスニングイベントについて、「僕が子供の頃から聴いてきたレコードの聴き方と同じで、信じられないほど素晴らしい試聴体験です。」と語ります。完全に集中し、気を散らすことなく、暗闇の中で、ただ音楽の旅に誘われるような体験です。」

ウィルソンはポーキュパイン・ツリーやソロ活動に加え、ミックスエンジニアとしても活躍し、グラミー賞に6回ノミネートされています。最近では、Tears for Fears、Def Leppard、Grateful Dead、The WhoのためにDolby Atmosミックスを手がけ、King Crimsonのデビュー作『In Court of the Crimson King』は、今後18.1.12リスニングイベントで紹介される予定です。これは、彼がすでにTangerine Dream、Yes、XTC、Roxy Music、Ultravoxなどの5.1サラウンドでミキシングした作品群に加わるものです。



音楽を本来の姿で聴く

7月、ウィルソンはL-Acoustics Creationsのハイゲートを訪れ、実際にその技術を聴いてみました。「いざ中に入ってみると、その空間に圧倒されました。実に素晴らしい部屋です。」とウィルソンは言います。「そこへ自分の作品や、伝統的なアーティスト、クラシックなアーティストのミックスをたくさん持っていきました。ポーキュパイン・ツリーのアルバムをAtmosで聴くために、ファンのためにいくつかのプレイバックイベントを行うことが提案され、私はそのアイデアが気に入りました。ロンドンとロサンゼルスイベントで最も評価したいのは、ファンが完全に独立したAtmosで、何の邪魔もなく音楽を聴くことができたことです。このような体験はめったにできないでしょう。僕が10代の頃、携帯電話やソーシャルメディアの時代よりずっと前に、レコードをかけて音楽に完全に没頭していました。それが、いまは少し失われつつあるように思います。私は、L-Acousticsの部屋のような空間に人々を集め、照明を落とし、アルバムが流れている間、完全に音楽と関わってもらおうというアイデアが好きです。古いやり方ですが、もっとやればいいのには思います。」

L-ISA Studioを用いた18.1.12ミックスの準備

L-Acousticsのアプリケーション・デザイン・エンジニアであるクリストファー・マクドネル（Christopher McDonnell）は、ウィルソンから渡された『CLOSURE / CONTINUATION』のマスターオーディオファイルを、

L-ISA Studio ソフトウェアプラットフォームでレンダリングし、ロンドンとロサンゼルス施設にある超高解像度18.1.12システムでミックスをしました。「L-ISA Studioにファイルを読み込んだら、L-ISA Studioが使うワイズのアルゴリズムを少し導入できるように、パラメーターを調整し始めました。」とマクドネルは説明します。「これは、ステイーヴンのミックスに忠実でありながら、隣接するスピーカーにエネルギーを分配し、ギャップを埋めることができるようにするためです。」

「空間が広いほど、ミックスに独立した感覚が生まれます。」とウィルソンは付け加えます。「例えば、私のスタジオはとても狭く、センタースピーカーにだけミックスの一部分を配置しても、突然この大きな空間で聴いたときほど寂しく聞こえません。クリストファーさんがやっていたことの多くは、オーディオの一部切り離して広げることで、スピーカーでアレイのような効果を出していたのです。そのおかげで、物事が少しはうまくまとまるようになりました。」ウィルソンは、ロンドンとロサンゼルスでの最近のイベントを成功とみなし、さらに協力を継続するつもりです。「今では、新しいAtmosミックスをリリースすることは、それが私の曲であろうと、私がリミックスした名盤であろうと、このイベントなしには考えられません。」と彼は言います。「King Crimsonのデビューアルバムと、私のソロアルバムのイベントを1月にやろうという話もすでに出ています。リスニング枠がある限りの数だけお願いしています!」

